

## 都市づくりの課題

### 主要課題の整理

本市の現状の特徴や問題点、住民意向等を踏まえ、都市づくりを進める上での項目別に見た基本的課題を以下に整理しました。

項目	都市づくりの基本的課題
人口	○中心市街地の人口密度低下によるまちなかの賑わい衰退 ○今後も人口減少が続くことに伴う、適切な規制・誘導 ○各地域のコミュニティを支える拠点形成
産業	○地域資源を活用した産業の育成 ○工業団地等の整備による新たな企業立地の推進 ○観光施設の利用者数の増加につながる施策
土地利用	○豊かな自然環境の保全・管理 ○身近な生活基盤の整備・改善、安心して暮らし続けられる住宅地の形成に向けた土地利用 ○各地域のコミュニティを支える拠点形成 ○遊休地等の有効活用
都市施設	○地域特性に応じた都市施設の適切な整備・維持管理体制の検討
生活基盤状況	○公共交通の利便性向上や利用者意識の改善など、新たな取組の検討 ○幹線道路や生活道路の整備
防災・減災	○災害に備えた都市づくり ○生活利便施設の集積(拠点性)に応じた人口集積



○新たに取り組んでいく必要がある課題

⇒「各拠点の形成やネットワークの確保による持続可能な都市づくり」

○これまでと同じ課題(継続的に取り組んでいく必要がある課題)

⇒「都市施設やインフラの整備、防災強化等による安全で、暮らしやすい都市づくり」

⇒「地域資源を活用した産業の育成や雇用の創出、観光振興の基盤となる都市づくり」

⇒「自然と共存した都市づくり」

項目別に見た基本的課題の整理をもとに、主要課題を以下に整理します。

### **主要課題 1**

#### **各拠点の形成やネットワークの確保による持続可能な都市づくりが求められています。**

今後も人口減少が続くことに伴い、適切な規制・誘導が必要です。具体的には、都市機能利便性の高いエリアへの人口集積による機能維持・向上を進めていくことが求められています。

また、中心市街地の人口密度低下によるまちなかの賑わい衰退が懸念されるため、駅前などでの魅力的な景観づくりや土地の有効利用の推進、ウォーカブルなまちづくりの推進等の取組が求められています。

さらに、中心市街地(中心拠点)のみならず、それぞれの地域のコミュニティを支える地域拠点、地域交通網の結節点である交通拠点、観光地の中心地となる観光拠点、市内外の人が集い交流する交流拠点など、それぞれの性格・役割に応じた拠点の形成が求められています。

加えて、それぞれの拠点間を結ぶネットワークの確保も求められています。

### **主要課題 2**

#### **都市施設やインフラの整備、防災強化等による安全で、暮らしやすい都市づくりが求められています。**

今後も、引き続き、長寿命化をベースとした公園・緑地の整備、水道・下水道設備等の計画的な更新の実施、幹線道路や生活道路の整備等を通じ、住みやすい地域をつくっていく取組が求められています。また、公共交通の利便性向上に向けた取組も求められています。

さらに、治水・治山などの防災対策強化、避難所・避難路の整備、防災情報の周知体制の強化等の取組を進めていくことも必要です。また、遊休地等の有効活用も求められています。

### **主要課題 3**

#### **地域資源を活用した産業の育成や雇用の創出、観光振興の基盤となる都市づくりが求められています。**

今後も、引き続き、農林水産業の振興や、6次産業化の推進、企業誘致等により、雇用を創出していくことが必要です。また、時代のトレンドを踏まえた既存の観光施設の有効活用や活性化を通じて、観光施設の利用者数の増加に向けた取組を進めていくことが求められています。

### **主要課題 4**

#### **自然と共存した都市づくりが求められています。**

本市は、小岱山、金峰山系の山々や、菊池川、有明海などの豊かな自然に恵まれています。今後も、そのような豊かな自然環境を保全していけるように、自然と共存した都市づくりが求められています。

## 都市づくりの理念と基本方針

---

### 都市づくりの理念と目標

---

#### ■都市づくりの理念

本市には、小岱山及び金峰山系の山々や、市域のほぼ中央を流れる菊池川、有明海など、豊かな自然が存在しています。そのような豊かな自然を舞台にして、今後、本市に暮らすすべての人々が輝けるように、第2次玉名市総合計画に即し、持続可能な都市づくりを進めます。

#### ■都市づくりの目標

本市では、本市に暮らすすべての人々が、豊かな自然を舞台にますます輝ける環境づくりを進めるために、都市計画による土地利用の規制誘導や、道路や公園などの都市施設の整備だけでなく、産業育成や観光振興、公共交通、防災、空家等の対策、景観など、様々な周辺分野と連携して取り組めます。

また、第2次玉名市総合計画の将来像(都市像)を、本計画の推進によって具体化していくといった関係性から、本計画における都市づくりの目標は、第2次玉名市総合計画で定められた将来像(都市像)とします。

『人と自然が輝き やさしさと笑顔にあふれるまち 玉名』

## 基本方針

都市づくりの目標を基に、都市計画マスタープランで取組む基本方針を定めます。

<b>基本方針1</b>	<b>各拠点の形成やネットワークの確保による持続可能な都市づくり</b>
--------------	--------------------------------------

今後も人口減少が続くことに伴い、都市機能の高いエリアへの人口集積による機能維持・向上を進めていくことが重要です。また、中心拠点、地域拠点、交通拠点、観光拠点、交流拠点などのそれぞれの拠点の持つ性格や役割を明確にし、各拠点の形成に向けた取組を進めていくことが重要です。さらに、拠点間を結ぶネットワークの確保も重要です。そのような考えから、各拠点の形成やネットワークの確保に向けた取組を通じ、市全体が一体となり、持続可能な都市づくりを推進します。

<b>各拠点の形成に向けた取組の推進</b>	都市機能利便性の高いエリアへの人口集積や、土地の有効利用の推進、ウォーカブルなまちづくり等を通じて、拠点性の向上に努めます。
<b>ネットワークの確保</b>	交通インフラの整備等を通じ、市街地とそれぞれの拠点や、拠点間を結ぶネットワークの確保に努めます。

<b>基本方針2</b>	<b>都市施設やインフラの整備、防災強化等による安全で、暮らしやすい都市づくり</b>
--------------	---

住み続けられる都市の実現を支える基本的な事項として、安全・安心で、暮らしやすい都市づくりが、すべての市民生活の基本であるとともに、最重要課題であると考えます。そのような考えから、計画的な都市施設やインフラの整備・維持管理、公共交通の利便性向上、防災対策の強化、**遊休地等の有効活用**などを通じ、暮らしやすい都市づくりを推進します。

<b>計画的な都市施設、インフラの整備・維持管理</b>	長寿命化をベースとした公園・緑地の整備、水道・下水道設備等の計画的なメンテナンスや日常管理の実施、幹線道路や生活道の整備等を通じて、住みやすい地域の実現に努めます。
<b>公共交通の利便性向上</b>	市内全域で高齢化率が上昇していくことを見据え、市民の生活の足を確保するために、公共交通の利便性向上に向けた取組の推進に努めます。
<b>防災対策の強化</b>	治水・治山などの防災対策強化、避難所・避難路の整備、防災情報の周知体制の強化等、防災対策の強化・推進に努めます。
<b>遊休地等の有効活用</b>	<b>遊休地、空き家・空地などの未利用地においては、土地の有効活用を図ります。</b>

<b>基本方針3</b>	<b>地域資源を活用した産業の育成や雇用の創出、観光振興の基盤となる都市づくり</b>
--------------	---

持続可能な都市づくりの実現には、農林水産業の振興や、6次産業化の推進、**事業承継、共通価値創造による事業育成**、企業誘致等による雇用の創出や、観光振興による賑わいづくりを図っていくことが重要です。そのような考えから、地域資源を活用した産業の育成や雇用の創出、既存の観光施設を有効活用する等の観光振興の基盤となる都市づくりを推進します。

<b>地域産業を活用した産業の育成や雇用の創出</b>	農林水産業の振興や、6次産業化の推進、工業団地等の整備による新たな企業立地の推進等を通じ、産業の育成や、雇用の創出に繋がる都市づくりに努めます。
<b>観光振興</b>	時代のトレンドや社会情勢の変化等を踏まえた、既存の観光施設の有効活用や活性化を通じ、観光施設の利用者数の増加に繋がる都市づくりに努めます。

<b>基本方針4</b>	<b>自然と共存した都市づくり</b>
--------------	---------------------

本市は、有明海、菊池川、小岱山、金峰山系の山々などの豊かな自然に恵まれ、それらは住む人々により育まれてきました。今後も、地域に誇りを持ち、自然への思いやりを大切にし、豊かな自然環境をしっかりと後世に受け継いでいくことが重要です。そのような考えから、引き続き、自然と共存した都市づくりを推進します。

<b>豊かな自然環境の保全</b>	小岱山、金峰山系の山々、菊池川、有明海などの <b>豊かな自然環境の保全</b> に努めます。
-------------------	---

**<主な見直し、更新ポイント>**

- 全体的に、前回計画よりも、具体的な内容に基本方針を改編**
- 中でも、基本方針1「拠点性の向上やネットワークの確保による持続可能な都市づくり」は、今後とくに注力して取り組んでいく必要があることから、今回新たに設定**

## 将来都市構造

### 将来都市構造とは

都市構造は、都市機能配置の概念を示すものであり、都市づくりの方針を実現するため、現在の土地利用や自然環境の骨格をベースに、将来像や主要なプロジェクトを考慮して設定します。

### ■都市構造の現状と課題

本市は、北部の小岱山、東部の金峰山系の山々、南北に貫く菊池川、その菊池川が育む広大な平野、南部の有明海と、恵まれた自然環境に包まれた「やま・まち・さと・うみ」により構成されています。

また、本市市街地は、**県道寺田岱明線**沿道に東西方向に拡散し、交通動線としての道路は、南北方向の配置が脆弱な状況にあり、今後は、市民の生活利便性を高め、より便利で快適に生活できる環境を形成するために、全市を一体的に捉えたまちづくりが求められています。

### ■都市構造の基本的な捉え方（ゾーンと拠点、軸の考え方）

本市の「やま・まち・さと・うみ」の個性と魅力を活かし、目指すべき都市像を踏まえ、将来の都市形成の基本的構成を「ゾーン」としてとらえ、それぞれの位置づけを示します。

また、集約型の都市構造を実現し、拠点性を備えた核となる地域とそれを取り巻く地域が特色を持ちながら相互に連携し、一体的な発展を目指した都市づくりを行うため、「拠点」を位置づけ、それぞれの特徴を示します。

さらには、それぞれの拠点が効果的に連携し、市域の一体的発展が図られるよう「都市軸」を設定します。

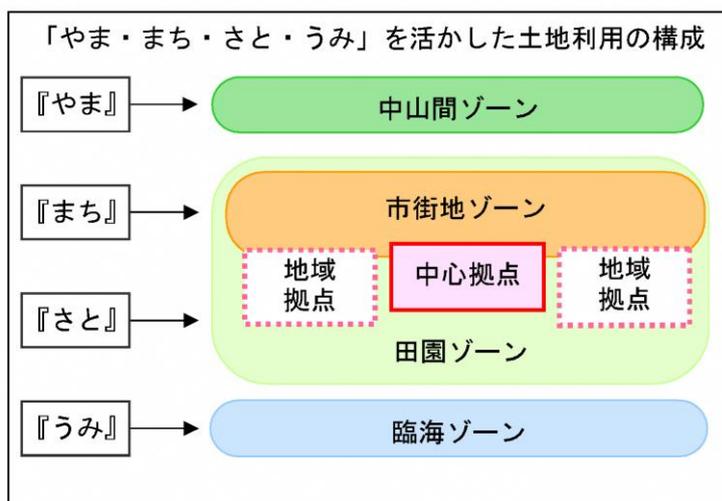


図 将来都市構造の基本イメージ

## ゾーン区分（土地利用構成）

---

### ■市街地ゾーン

国道 208 号と JR 鹿児島本線に囲まれた区域ならびに県道長洲玉名線沿いの区域は、本市の中心的な市街地を形成すべきゾーンであり、住宅、商業、サービス業、教育・文化、業務などの都市的機能の整備を重点的に進める「市街地ゾーン」として位置づけます。

とくに、玉名駅周辺や、玉名市役所本庁舎周辺、旧玉名市役所周辺、新玉名駅周辺については、市民生活を支える各種公共サービスが集積した本市の「中心拠点」及び「交通拠点」として、各種機能の維持・集積・強化を図ります。

### ■田園ゾーン

市街地ゾーン周辺の農地については、「田園ゾーン」として位置づけ、本市の基幹産業である農業の振興を進めると同時に、豊かな自然環境や美しい田園景観の形成などにも寄与している区域として保全を図りながら、「市街地ゾーン」へのアクセス性・生活利便性を高めます。

### ■中山間ゾーン

本市北部の小岱山、東部の金峰山系の山間部については、豊かな自然資源や歴史的資産の宝庫であるとともに、特に天水地区における熊ノ岳・三ノ岳の丘陵地は、全国でもトップクラスの生産量を誇るみかんの産地です。

また、水源のかん養、地球温暖化防止など多面的機能を有することから、森林の多面的機能を活かした保全と整備及び中山間地域の農業振興を重点的に進める「中山間ゾーン」として位置づけます。

「中山間ゾーン」は、現在の豊かな自然・歴史資源の保全・活用を図るほか、玉名らしい景観形成への活用、休息やレクリエーションの場としての活用を図ります。

### ■臨海ゾーン

本市南部の有明海沿岸部については、有明海の自然を活用した水産業及び臨海レクリエーションの振興を進める「臨海ゾーン」として位置づけ、漁場の保全と整備を進め、海苔やアサリなどの水産業の振興を推進する場としての活用を図ります。さらに、地域団体と連携し、有明海の景観を活かしたレクリエーションや観光漁業などの振興に繋がります。

## 都市拠点

---

### ■中心拠点

中心拠点とは、本市の主要な機能・施設が集積している場所として、**玉名市役所本庁舎周辺、既存の商店街、旧玉名市役所周辺を併せた一帯を位置づけます。**公共・公益サービス、商業・業務サービス、情報発信など、**積極的な都市機能の誘導等を進め、中心拠点としての求心力向上に努めます。**

### ■地域拠点

地域拠点とは、各地域で市民生活を支える機能や施設が集積している場所として、各地域の中心地として住民サービスを担ってきた**岱明支所周辺、横島支所周辺、天水支所周辺を位置づけます。**地域拠点は、地域住民の生活の中心であり、教育・文化活動やコミュニティ活動の拠点として、**周辺の公共公益施設の集約化や、生活サービス・文化交流機能の維持・向上に努めます。**

### ■交通拠点

交通拠点とは、九州新幹線や JR 鹿児島本線、高速道路などの広域交通ネットワーク、幹線道路、バス路線などの地域交通網の結節点として、また、様々な交流活動の中心として、本市の玄関口である**新玉名駅周辺及び玉名駅周辺を中心とした各エリアを位置づけます。**

**新玉名駅周辺については、新玉名駅周辺等整備基本計画に基づき、周辺の土地利用との調和を図るとともに、適正な機能の誘導に努めます。**

**玉名駅周辺については、交通結節点としての機能向上を図ると同時に、主要観光スポットである玉名駅周辺から玉名温泉街、新玉名駅までの歩行者・自転車ネットワークを確立する等、アクセス性の向上を図ります。**

### ■観光拠点

観光拠点とは、本市の観光地の中心となる場所として、由緒ある**玉名温泉街や小天温泉を中心とした地域を位置づけ、風情ある街並みなどの醸成に努めつつ、文化遺産の保存・活用や、地域の観光施設や文化遺産を案内できる人材の育成を進め、魅力的な観光空間の形成を図ります。**

### ■交流拠点

交流拠点とは、市内外の人が集い交流する場や、豊かな自然とのふれあいの場として、「**蛇ヶ谷公園や桃田運動公園などの公園**」、「**鍋松原海岸**」などを位置づけます。市民の憩いの場、スポーツやレクリエーション及びコミュニティ活動などの場としてさらなる交流機能の維持・向上を図ります。

## 都市軸

---

### ■広域連携軸

九州新幹線及び鹿児島本線をはじめ、九州縦貫自動車道(菊水インターチェンジが近接)、**国道208号(荒尾-玉名-熊本(北区))**、**国道501号(長洲-玉名-熊本(西区))**、**県道玉名立花線～玉名山鹿線(玉名-山鹿)**、**県道熊本玉名線(玉名-熊本(中央区))**などの路線については、本市はもとより、県北地域をはじめ、九州圏における交通の「広域連携軸」の一部を形成しており、物流や都市間交流を支える基盤として、さらなる活用を図ります。

### ■街なか連携軸

市内の主要な各路線(県道、市道)を「街なか連携軸」として位置づけ、市内の主要な公共公益施設などを結び、市全域から「中心拠点」へのアクセス利便性を高める主要道路として、関係機関との連携を図りながら交通利便性・安全性の向上に向けた取組を推進します。

また、**高齢化社会や脱炭素化社会の構築を視野に入れ、「歩きたくなるまち玉名」をコンセプトに、安全安心に歩ける道づくりを進めます。**

### ■環境軸

菊池川などの河川空間は、市民にとっても貴重な自然空間であり、市街地中心部の緑地帯及び憩いの場となっています。また、本市の都市構造においても、北部の山間部から、田園ゾーン、市街地ゾーンを流れ、有明海に注ぐ、本市南北を貫く重要な軸でもあります。

そこで、「環境軸」として位置づけ、浸水などの災害に備えた河川改修を促進するとともに、生態系に配慮した多自然川づくりを推進し、生態系に十分配慮した環境共生の取組や、豊かな市民生活の実現や健康増進に向けた憩いの場として積極的な活用を図ります。

図一 将来都市構造図

<主な見直し、更新ポイント>

○「広域連携軸」と「街なか連携軸」の見直し、更新

○「中心拠点」の該当エリアの見直し(玉名駅周辺商店街を包含)

○「観光拠点」の見直し

